

第5回 住民参加型土木の世界

『「母親モニター」プロジェクト』

野田昭子
NODA Akiko
徳島大学大学院

橋本紳一郎
HASHIMOTO Shinitiro
徳島大学大学院

はじめに

この企画は6回シリーズで、現存する構造物や現在施工中の現場に加えて、教育、団体活動など幅広い分野の“現場”を編集委員自らが体験、レポートします。普段あまり目にしない現場の実情を紹介しながら、現場で取り組んでおられる方々に、その必要性、思いなどをお聞きます。

5回目である今回は、住民参加型土木の世界と題し、国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所で行われている「母親モニター（ハハモニ）」プロジェクトを取り上げます。「ハハモニ」プロジェクトとは、母親の視点から、富山県内で行われている地域づくり（道路整備や河川整備など）について、行政に対し直接考えや意見を述べてもらう制度です。「ハハモニ」プロジェクトについて、調査第二課長の小山浩徳さんと実際に母親モニターをされている岡村孝子さん（小杉町在住）、岡本奈保子さん（富山市在住）にお話を伺いました。



第3回フォーラム「夏休み特集 ハハモニ学習塾」の様子

なぜ、「ハハモニ」を行うことになったのですか。

現在、行政の取組み方は大きく変わろうとしています。これまで、公共事業の多くは主に行政が中心となって進めてきましたが、ある程度社会基盤が整備されてくるにつれて、住民の方々から「こうしてほしい」という要望が出てくるようになりました。これはもう行政だけで計画してものをつくる時代ではなくなってきたということだと思います。今では、行政全体が「対話型行政」を進めていこうという動きがあります。

それと以前から、国土交通省では女性層をターゲットにして広報活動を行っていこうという方針がありました。われわれは、家庭の中心である「母親」からの広がりに着目し「ハハモニ」を考案したわけですが、ちょうどその流れにもそったこととなりますね。

「ハハモニ」プロジェクトはいつから、どのように始まったのですか。

2002（平成14）年10月27日に新聞広告で「ハハモニ」を募集したところ、115名の方々からの応募がありました。

その後、意思確認等を行い、11月よりスタートしました。現在、103名の方々が「八八モニ」として活動されています。

どのような方がモニターをされているのですか。

年齢層は20代から50代の方までと幅広いですが、お子さんが小さい30代の方が中心となっています。お住まいは富山県下全域で、どちらかと言えば山間部より平野部が多いですね。

モニターの任期はあるのですか。

モニターの任期は基本的に1年間としていますが、継続していただける方には今後もお願いする予定にしています。

「母親モニタープロジェクト」全体の活動について教えてください。

現在まで計3回のフォーラムを行いました。第1回の「お母さん、まかせたよ!」は47名、第2回の「激論バトル! 八八モニ VS 富山家」は51名、第3回の「夏休み特集 八八モニ学習塾」は28名の参加がありました。第4回は、11月に1年間の総括としてフォーラムを開催する予定です。

「八八モニ」からの投稿がきっかけとなって行われた工事などはありますか。

これまで、国や自治体が管理する道路や河川について、約



モニターの意見によって移動された歩道の電柱
(写真上：移動前、写真下：移動後)

160件(うち、道路に関するものが約130件)の投稿がありました。そのなかで以下のような工事・対策が行われました。

- ・歩道内に立つ電柱の移動(北陸電力)
- ・わかりにくい道路標識の改善
- ・道路に伸びる植栽の刈り込み
- ・道路交差点のラインの引き直し(警察)
- ・日光が当たって見づらい河川の情報板の改善

八八モニの方々からの投稿は、われわれでは気づきにくい、ユーザーである住民の方でないと気づかない点(特に道路標識など)が多いですね。このプロジェクトを始めて、行政内部だけでなく外とのやり取りの場が重要だと感じるようになりました。

また、ホームページも開設しており、ページ内の掲示板で自分や他の人のやりとりを見ることによって、知識や見方を広げてもらうきっかけになればと考えています。今後、掲示板の中で八八モニの方向士が意見交換していただけるようになることを望んでいます。

八八モニの方の反応はいかがですか。

「八八モニをきっかけとして周囲の見方が変わってきました」というご意見もいただいており、徐々にではありますが、社会資本整備に対する意識の変化を感じています。

県や市、警察といった他の組織における「八八モニ」についての反応はいかがですか。

県や市、警察などの窓口の方は「八八モニ」についてご存



第1回フォーラム「お母さん、まかせたよ!」の様子



第2回フォーラム「激論バトル! 八八モニVS富山家」



フォーラムの間の体験コーナー企画(同伴のお子さんとのヘリコプター搭乗体験)

知だと思います。でもまだ1年目なので反応は薄いですね。また、投稿に対して、管理者や窓口を調べるのも大変ですが、行政や公共事業に対する住民の考え方を変えてもらうために頑張っていきたいと思っています。

ホームページは誰がつくっているのですか。

「八八モニ」は、10人のスタッフで分業して行っています。ホームページ上にある投稿テーマは、基本的に自由とな

っており、2003(平成15)年10月の1か月間で、約800件のアクセスがありました。

このプロジェクトについて、一番大変なことは何ですか。

投稿に対して、管理者である県や市町村、警察署とやり取りをするのは、なかなか大変です。また、八八モニの方に喜んでいただけるフォーラムの企画を考えるのには苦心しています。

今後、このプロジェクトをどのように展開しようとお考えですか。

プロジェクトをスタートして1年経ちましたが、今後新しいモニターの方にも入っていただき、ワークショップなど、少人数で議論できるような場もつくっていきたいと思っています。

そして、住民の方々にわれわれの仕事をよく知ってもらいたいと思っています。また、これからの世の中をつくっていく子どもたちにきちんと必要なことを伝えなければならないと思っています。そのためにも積極的にPR活動をしていきたいですね。全国に広げようという意気込みでやっています。

コラム：「八八モニ」へのインタビュー

「八八モニ」になったきっかけについて教えてください。

岡村さん：2002(平成14)年の10月27日に掲載された新聞の広告で知りました。このモニターになって、道路について意見を言えば、子どもたちの安全確保ができるようになるのでは...と思ったのがきっかけです。

岡本さん：私も同じ新聞広告を見て応募しました。今は富山市に住んでいますが、去年まで立山町に住んでいて、子どもをよく常願寺川に連れて行ったりしていたので、川には関心がありましたね。

実際に「八八モニ」として活動してみて、どういった感想をお持ちですか。

岡本さん：今までは見過ごしている部分も多かったと思いますが、投稿のあった場所など、関心を持って見るようになりました。投稿に対しては、多少時間がかかっても必ず回答してくれるんです。今までは何か思うところがあっても、どこに聞けばいいかわからなかったのですが、それを全てここで受け止めてくれるというのは大きいですね。

私が「八八モニ」になってからは子どもと、工事や環境について話をする機会が増え、子どももすごく興味を持つようになりました。そういう意味もあって、母親をモニターにしたのかなと思います。

岡村さん：まだ始めて1年なので、正直言って、やり方があまり上手くないと感じることもあります。でも管轄に関係なく、ここに窓口を設けてくれたのは有り難いですね。今後、ここからネットワークが広がるように成長していけば、すばらしいプロジェクトになると思います。

実際に投稿した内容について聞かせてください。

岡本さん：家で花壇をつくらうとした際、子どもが花壇のまわりに石を置きたいと言ったので、「花壇に必要な石や砂を川から取って来てもいいですか?」と投稿しました。それに対して、「個人で多少持ち帰る程度であれば問題ありません」というお返事をいただきました。この窓口があることによって、些細な疑問でも気軽に聞けるのがいいですね。

岡村さん：家の近くの狭い歩道に立っている電柱について投稿したのですが、その電柱が移動された時、家族の反響は大きかったです。家族が喜んでいるのを見ると、やはり嬉しかったですね。パレットとやま(事務所のコミュニケーションネーム)で受けたことを役場に伝え、そこから電力会社に相談を持ちかけて電柱が移動されたという連携は、とても良かったと思います。

このプロジェクトに期待することは何ですか。

岡本さん：新しい事業を進めるというより、今あるところを

しっかり整備してほしいと思いますね。

岡村さん：投稿しようと思うのは、やはりメンテナンスの部分ですね。母親としては、新しいものができてさらに便利になることを期待するというよりも、毎日の生活を不自由なく快適に過ごしたいという気持ちが強いです。川や道路は空気と同じくらい人間の毎日に必要なものですからね。

1本の道でも国や県、警察などいろんな組織が関わっているので、その管轄を超えて連携を図れるようなシステムを、国としてつくっていくことが必要だと思います。

小山さん：そうですね。地域住民の方々の声を、管轄に関係なく、「こういう話がありますよ」と伝え合うシステムをわれわれ行政はつくるべきだと思っています。このプロジェクトで、少しずつでもネットワークを広げていきたいと考えています。そういう意味で、今は「種蒔き」の時期だと思います。

今後、パレットとやまに期待することは何ですか。

岡村さん：まだ試行錯誤の段階なのはわかりますが、投稿に対する回答で「予算がないからできません」というのを見ると、とても残念に思います。「知恵」を絞れば、予算がなくてもできることはたくさんあると思います。そういう知恵を出し合う場づくりというか、いろんな人の知恵が集められるような仕組みをつくってほしいと思っています。

岡本さん：今、子どもが小学校で川の勉強をしているんですが、総合学習の時間などで専門家の話を聞くというのは子どもにとってはすごくためになると思うので、学校にも働きかけをしていただきたいと思います。

小山さん：実はそれもやっています。総合学習への取り組みとして、副読本をつくったり、総合学習の担当の先生方が集まる研修会でわれわれの活動を紹介し、現地に小学生を案内したりもしています。われわれが出向いて小学生に話をする「出前講座」もやっています。

岡本さん：私たちの耳に入ってこないということは、そういう面での広報活動があまり上手くないのかなと思います。例えば、子どもが家に帰って帰る「お知らせ」などに載っていれば、子どもと一緒に見ますよね。八八モ二は、自分が利用者として道路などについて考える部分と、母親として子ども



取材終了後に富山河川国道事務所。
前列左からモニターの岡本さん、岡村さん、小山さん、
後列左から橋本委員、野田委員。

たちに伝えていきたい部分の両面があるので、それを視野に入れて進めていただければと思います。

取材を終えて...

行政の方と「八八モ二」の方、両方のお立場の方から直接お話を伺うことができ、地域住民が自分たちの地域のことについて声をあげる場をつくったというこの取組みの意義の大きさと意味の深さを実感しました。

[学生編集委員 野田昭子]

母親モニターの方の意見によって実際に工事された場所があることには驚きました。また、改めてこのような新たな試みを進めていくことの難しさを感じました。

[学生編集委員 橋本紳一郎]

最後になりましたが、今回の取材において国土交通省富山河川国道事務所の小山課長様、武田様には大変お世話になりました。また、八八モ二の岡村様、岡本様にも貴重なご意見をいただきました。どうもありがとうございました。

この記事に関する感想、ご意見は下記までお寄せください。
E-mail: edi2@jsce.or.jp

学生編集委員を募集します。 - 私たちと一緒に学会誌を作りませんか -

仕事：基本的に学生のページを担当。
編集委員会への出席（原則月1回：東京）。単発取材記事もあり。
任期：決まり次第～1年以上 2年以内
資格：国内在住の大学生・大学院生であること。土木学会会員であること。
報酬：なし（旅費、取材必要経費は学会で負担します）

応募方法：簡単な履歴・顔写真および自己PRをA4用紙1枚程度にまとめ、下記まで郵送してください。指導教官の承認の一文を添えてください。
募集人員：2～3名
応募締切：2004年3月31日
応募先：〒160-0004 新宿区四谷1丁目（外濠公園内）
（社）土木学会 編集課 中村宛